琉球海運株式会社

【本　　社】　〒900-0036
住 所：　沖縄県那覇市西 1 丁目 24 番 11 号
電 話：　098-868-8161（代表）
Ｆａｘ ：　098-868-8561
ホームページ：　http://www.rkkline.co.jp/

【設　　立】　昭和 25 年 1 月 23 日
【資 本 金】　49,980 万円
【代 表 者】　代表取締役社長　山城博美
【事 業 所】　東京支店、大阪支店、福岡支店、鹿児島営業所、宮古支店、八重山支店、台湾駐在員事務所
【事業内容】　・海上運送事業
・貨物利用運送事業（第 1 種及び第 2 種）
【就航航路】　東京／大阪／那覇、博多／那覇、博多／鹿児島／那覇、那覇／宮古、那覇／石垣、博多／鹿児島／那覇／宮古／石垣／高雄（台湾）
【従 業 員】　161 名（陸上 44 名・海上 117 名）：平成 26 年 8 月 1 日現在

【運航船舶】　にらいかない（5,613 トン）　しゅれい（6,562 トン）
かりゆし（9,943 トン）　わかなつ（10,185 トン）
みやらびⅡ（10,184 トン）　ちゅらしま（9,483 トン）
栄球丸（499 トン）　大峰山丸（499 トン）
第 2 優昭丸（499 トン）　優昭丸（499 トン）
第 22 愛廣丸（499 トン）

【沿　　革】

昭和25年	1 月	琉球海運株式会社設立
	10 月	社有船第 1 号貨物船「琉球丸」那覇港へ入港
昭和26年	2 月	日琉間不定期航路開設
昭和27年	2 月	旅客定期航路開設（那覇/名瀬/鹿児島）
昭和37年	6 月	那覇/大阪/神戸/門司 貨物定期航路開設

昭和42年	7月	那覇/東京旅客定期航路開設 「ひめゆり丸」就航
昭和44年	7月	貨客船「とうきょう丸」建造 東京航路に就航
昭和47年	2月	貨客船「なは丸」建造 東京航路へ就航
	12月	貨客船「ごーるでんおきなわ」建造 大阪航路へ就航
昭和48年	2月	貨客船「日琉丸」 中国航路に就航
	7月	貨客船「おきなわ丸」建造 鹿児島航路へ就航
昭和50年	2月	那覇/博多 定期航路開設及び貨客船「えめらるどおきなわ」建造
		博多航路へ就航
	4月	貨客船「だいやもんどおきなわ」建造 東京航路に就航
昭和51年	12月	鹿児島/那覇/先島航路の直行便開設
昭和56年	4月	貨客船「さんしゃいんおきなわ」就航
昭和63年	1月	貨客船「かりゆしおきなわ」建造 東京航路に就航
平成3年	2月	貨客船「わかなつおきなわ」建造 博多航路に就航
平成7年	1月	初のRORO型貨物船「みやらび」建造 大阪航路に就航
平成9年	1月	RORO型貨物船「にらいかない」建造 博多航路に就航
平成10年	4月	東京・阪神航路週2便運行体制
平成12年	1月	RORO型貨物船「しゅれい」建造 博多・先島航路に就航
平成14年	11月	RORO型貨物船「かりゆし」建造 東京・大阪・先島航路に就航
平成18年	9月	RORO型貨物船「わかなつ」建造 東京・大阪・先島航路に就航
平成19年	5月	「わかなつ」 シップ・オブ・ザ・イヤー2006受賞
平成22年	7月	RORO型貨物船「みやらびⅡ」建造 博多・先島航路に就航
平成26年	4月	RORO型貨物船「ちゅらしま」建造 博多・先島航路に就航
	6月	那覇/高雄航路開設
		「みやらびⅡ」博多・鹿児島・先島・台湾航路に就航

【安全基本方針】

(1) 船舶の運航に係わる業務の遂行に当たっては常に細心の注意を払い、安全を全てに最優先し、これを阻害するものとの妥協は一切排除する。

(2) 関係法令及び諸規則等はこれを厳に遵守する。

(3) 安全マネジメント態勢について、改善の必要性がある時はこれを速やかにかつ効果的に改善する。

【安全方針】

「安全に妥協なし」の経営トップコミットメントを前提に設定する。

（1）安全管理規程の周知徹底

（2）教育訓練の実施及び社内規程（船員就業規則、船員職務分掌規程）の遵守

（3）船員法、船舶職員法、船舶安全法等関係法令の遵守

（4）重大事故及び緊急時対応策の慣熟訓練

【運航船舶】

にらいかない（5,613 トン）

しゅれい（6,562 トン）

かりゆし（9,943 トン）

わかなつ（10,185 トン）

みやらびⅡ（10,184 トン）

ちゅらしま（9,483 トン）

久米商船株式会社

[本社]　〒９００－００１６　　沖縄県那覇市前島３丁目１６番９号
　　Ｔｅｌ：　０９８－８６８－２６８６　（代表）

[代表者]　代表取締役社長　　桃　原　敏　夫
[設立]　　１９５０年４月１０日（昭和２５年）
[事業内容]　　一般旅客定期航路事業
[従業員数]　　５６名（海上３０名　陸上２６名）

[沿革]
昭和２５年４月　　創業者桃原清二により海運業を始める
　　那覇～久米島航路を開設
昭和４５年７月　　渡名喜村営　那覇/渡名喜航路を合併し平和海運合資会社を設立

昭和４７年７月　　仲里村営　那覇/久米島航路を合併し合資会社平和海運とする

昭和 49 年 11 月　　新造船フェリー久米島（総トン数 999 トン）就航　那覇/久米島航路
　　離島航路の大型化、スピード化、フェリー化が促進される

昭和 50 年 5 月　　合資会社平和海運を吸収合併し久米島フェリー株式会社を設立

昭和 56 年 8 月　　久米島海運合資会社　那覇/久米島航路の営業権を譲渡し久米島航路
　　が一本化される。　那覇/渡名喜/真泊/兼城 航路となる。

昭和 57 年 6 月　　フェリーなは（総トン数 697 トン）就航　　フェリー2 隻体制となる。

昭和 63 年 12 月　　新造船ニューくめしま（総トン数 679 トン）就航
　　フェリー2 隻、高速船 1 隻体制となる。

平成 8 年 12 月　　那覇市前島に本社社屋完成

平成 12 年 4 月　　創立 50 周年を期に久米商船株式会社に社名変更

平成 16 年 11 月　　フェリー2 隻体制運航とし、那覇/渡名喜/久米島航路とする。

平成 18 年 12 月　　船員労働災害防止優良事業者認定

平成 24 年 7 月　　フェリーなはの代船として新造船フェリー琉球（総トン数１，１８８トン）就航

[船内労働安全衛生対策への取組]

安全衛生委員会を毎月開催し、毎朝のアルコールチェックやヒヤリハット情報の収集、外部機関で実施する安全衛生講習会および教育訓練等へ積極的に参加することで安全運航に対する意識を高め、お客様への安心・安全の確保に全力で取り組んでおります。

フェリー琉球

ニューくめしま

東亜運輸株式会社

[本社住所]　〒900-0001　沖縄県那覇市港町 3 丁目 7 番 50 号
Tel　098-868-0231　（代表）
[代表者]　代表取締役社長　稲　嶺　有　晃
[設立]　1970 年 12 月 8 日　（昭和 45 年）
[事業内容]　内航海運業、内航貸渡業
[従業員数]　113 名（海上 82 名　海上給油 15 名　陸上 16 名）

[沿革]

1970 年 12 月　資本金 60 万ドルにて東亜運輸（株）設立

1971 年 11 月　増資 20 万ドル⇒20,000 株。（旧琉石⇒10,000 株　旧昭和油槽船⇒10,000 株）
1971 年 12 月　白龍丸（2,983GT）　就航
1972 年 3 月　地龍丸（1,112GT）　就航
1972 年 4 月　全国内航タンカー海運組合加入
1972 年 5 月　沖縄本土復帰　資本金 2 億 4 千 4 百万円とする
1973 年 6 月　内航運送業の許可を受ける
1977 年 4 月　旧昭和油槽船株式譲渡 10,000 株　⇒　旧琉石へ
1980 年 5 月　旭丸・第二旭丸・第三旭丸　就航
1980 年 5 月　地龍丸代替船として
初代　第八天竜丸就航　999GT　・黒油 2,000KL 型
1983 年 5 月　白龍丸　海外売船
1986 年 4 月　本社移転　（現住所となる）
1988 年 2 月　第八旭丸　就航　109GT　黒油 260KL 型
1994 年 8 月　二代目　第八天竜丸　就航　1,568GT　白油 3,000KL 型
1997 年 9 月　天竜丸　就航　749GT　白油・黒油兼　1,500KL 型

1998 年 3 月　分譲マンション事業竣工開始
1999 年 4 月　旧日石沖縄油槽所　運営委託開始
1999 年 12 月　第七天竜丸　就航　748GT　黒油 1,500KL 型
2002 年 5 月　ISM 取得
2002 年 10 月　第二十一天竜丸　就航　748GT　白油　1,800KL 型

2003 年 6 月　　（株）りゅうせき船舶給油所運営受託開始
2003 年 7 月　　（株）りゅうせきの１００％子会社となる
2004 年 3 月　　旧日石沖縄油槽所　運営委託終了（閉鎖）
　　（現　沖縄電力吉浦発電所）
2005 年 7 月　　第三天竜丸　就航　746GT　白油 1,650KL 型

2006 年 5 月　　資本金 4 億円に増資
2006 年 12 月　　第十八天竜丸　就航　747GT　白油　　1,700KL 型
2008 年 10 月　　第五天竜丸　　就航　748GT　黒油　　160KL 型
2014 年 6 月　　第五旭丸　　就航　84GT　　黒油　　160KL 型
2014 年 7 月　　（株）栗之浦ドックにて　第 434 番船　白油　3,000KL 型　建造中

保有船腹　　計１２隻

船　名	総トン数（GT）	積載油種	積（KL）	竣工年月
天竜丸	749	白油・黒油	1,500	1997 年 9 月
第三天竜丸	746	白油	1,650	2005 年 7 月
第五天竜丸	748	黒油	1,400	2008 年 10 月
第七天竜丸	749	黒油	1,500	1999 年 12 月
第八天竜丸	1,568	白油	3,000	1994 年 8 月
第十八天竜丸	747	白油	1,700	2006 年 12 月
第二十一天竜丸	748	白油	1800	2002 年 10 月
旭丸	38	黒油	90	1980 年 5 月
第二旭丸	38	黒油	90	1980 年 5 月
第三旭丸	38	黒油	90	1980 年 5 月
第五旭丸	84	黒油	160	2014 年 6 月
第八旭丸	109	黒油	180	1988 年 2 月

[船内労働安全衛生対策への取組]

船内安全衛生委員会を毎月開催し、抜き打ちのアルコールチェックやヒヤリハットの発掘と周知の実施、訪船指導員による訪船活動をとおして技術指導及びアドバイスを行い、次世代への技術の継承も推進しております。

社外の講習機関を活用した教育と他社合同勉強会にも参加することで安全　輸送に対する意識を高め、お客様への安心・安全・安定の実現・継続に全力で取り組んでおります。

沖縄マリンサービス株式会社

会社概要

商　　号　　沖縄マリンサービス株式会社
Okinawa Marine Service Co., Ltd.

設立年月日　　1972 年 2 月 11 日
会社所在地　　〒901-2402
沖縄県中頭郡中城村字泊５３７番地２

営 業 種 目

- 船舶の海上曳航及び海上回航作業
- 船舶の港内離岸接岸作業
- 船舶代理店業
- 各種港湾サービス業
- 港湾荷役作業
- 石油製品の仕入ならびに販売

資本金　　３千万円

代　表　者　　代表取締役社長　　小 林　道 康

従 業 員 数　　21 名（ 陸上　6 名/　常勤役員を含む　海上　15 名 ）

所 有 船 腹　　曳 船　　３ 隻　　多目的船１ 隻
曳船；泡瀬丸、平成丸、中城丸
多目的船；　かりゆし

当社は､広くマリンサービス全般の業務を行う目的をもって､1972 年 2 月に発足しました。
豊富な経験と的確な判断で中城湾内を基点に海のスペシャリストを目指します。
現在、中城新港地区に 3,200 馬力の曳船 3 隻・多目的船 1 隻（700 馬力）を所有し、大型船舶の　離着桟補助作業および危険物積載船である原油タンカー・ＬＮＧタンカーの荷役警戒業務を実施しています。併せて、内航外航の船舶代理店業務等も行っており、中城内を基点に沖縄県内のマリンサービス事業に幅広く携わっています。
所属の曳船は、船舶火災や油流出の防除などの海上防災業務に対処するため、化学消防

設備や流出油処理装置を搭載しています。また、本社では海上災害防止センター殿が所有する排出油防除資材の保管管理を行っています。
今後とも常に技術の向上を図り、安全作業の徹底と豊かな沖縄の自然環境保全に努め顧客の皆様方のご期待に応え、併せて地域の発展に寄与してゆきたいと存じます。

所有船と作業状況

曳船：平成丸

曳船：中城丸

曳船：泡瀬丸

作業船：かりゆし

原油船着桟作業状況

LNG 船着桟作業

中城新港着桟作業

【船内労働安全衛生対策への取組】

１．安全衛生推進活動
（１）スタンバイ 15 分前ミーティングの実施
（２）管理職による安全衛生パトロールの実施

（３）ＫＹ活動の実施

（４）船内安全会議の実施
（５）海洋汚染防止の徹底確認作業の実施
（６）安全意識と環境保護意識の高揚を図るスローガンの募集

２．安全衛生教育
（１）教育研修（社内・社外）
人材育成/技術向上のため教育研修を随時実施
（２）各種安全衛生講習会参加
乗組員の安全意識向上のため、各種安全衛生講習会に参加します。

３．コンプライアンス活動
（１）遵法状況点検月間の実施（8 月）
（２）社外講師による法令遵守講習会を年 1 回実施
（３）アルコール検査実施
酒気を帯びた状態での乗船（乗務）の完全防止を図るため毎日実施
（４）社内飲酒撲滅強化月間の実施（1 月）